

K

yoto

P

olicy

I

nstitute

2012
No. **3**
8・9月号

発効日 2012年9月1日
京都政策研究センター
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町 1-10
京都府職員研修・研究支援センター 1F
TEL&FAX : 075-703-5319 E-mail : kpiinfo@kpu.ac.jp
*セミナーのご案内やニュースレターなどをメールマガジンで配信しています。
ご希望の方は、上記メールアドレスまでご連絡ください。

事業報告 第2回連続自治体特別企画セミナー

平成24年7月26日(木)、豊岡市政策調整部地域戦略推進課長の上田篤氏と、兵庫県立コウノトリの郷公園研究員、兼兵庫県立大学自然・科学研究所講師の菊地直樹先生にお越しいただき、『コウノトリが舞うまちづくり～兵庫県と豊岡市の挑戦～』を開催いたしました。

まず上田氏からは、「コウノトリと共に生きる豊岡のまちづくり」と題し、野生コウノトリを捕獲し檻に入れ、人工飼育を始める際に「いつかはきっと空に帰す」とコウノトリと約束したことからコウノトリの野生復帰に力を入れてきたお話を頂きました。具体的には、行政だけでなく市民、学識者が共にコウノトリの野

生復帰をめざし、今日に至るまでの取り組み——例えば「コウノトリ育む農法」の実施をはじめビオトープや湿地の整備、ツーリズムなどからコウノトリを軸に地域経済の活性化を目指した取り組み——や、今後精力的に取り組んでいくコウノトリも市民も暮らせ、エコに取り組み、エコで豊かになることを目指す「エコバレー」構想についてなどのお話を動画や写真も交えて伺いました。

続いて、菊地先生からは「コウノトリの地域資源化と順応的ガバナンス」と題してご講演頂きました。具体的には、時代の流れと共にコウノトリの価値の変化——例えば害鳥としての「ツル」から国の宝としての「コウノトリ」へ、「そこに当たり前にいるもの」から「地域資源」へと変わっていったこと——についてや、コウノトリを中心に豊岡の社会資源である人や地域経済、文化、自然、生き物がつながっていった大きな社会的変化について、また、コウノトリから地域を考える「鶴見カフェ」の取り組みや「順応的ガバナンス」や「レジデント研究者」という概念などについてお話して頂きました。



【参加者の声】

- コウノトリとの共生を通じてまちの活性化につながっている取り組みが理解できてよかった。昔は当たり前だった人間と鳥、虫、動物が身近に暮らしていた姿が、今見直されてきていると思う。それを今回の豊岡の取り組みが改めて実証してくれている。
- コウノトリの郷公園は何度か行かせていただきましたが、市や地元の方の声を直接聞かれた先生のお話を聞いて大変興味深く感じました。
- 地域全体でコウノトリを守ろうという気持ちが伝わってきました。コウノトリを守ることで、地域も会社も連携していて、コウノトリがきっかけになる、自然がきっかけになることは素晴らしいと思いました。

★質疑応答を含め、セミナーの詳細内容はHPに掲載いたしますので、ぜひご覧ください。

連続自治体特別企画セミナーのお知らせ

*公共交通機関をご利用ください。
*詳しくは、[京都政策研究センターHP](#)（京都府立大学HP内）
をご覧ください。

◆第3回 9月27日（木）午後3時～5時15分 場所：京都府立大学 合同講義棟2F 第2講義室

『日本一小さな町のシンクタンクが地域の未来を拓く』

「地域にこだわり地域から発想するまちづくり」講師 岡崎 昌之氏（法政大学 現代福祉学部 教授）

「地域の可能性を引き出す中間支援組織・上流研の取り組み」報告者 鞍打 大輔氏

（特定非営利活動法人 日本上流文化圏研究所 事務局長）

「まんのうがん」の邑づくり～山梨県早川町の魅力～

山梨県早川町は高齢化と人口減少が急速に進む中山間地域の典型的な町。人口も1,234人と日本一小さな町だ。そんな町が自前でシンクタンク・日本上流文化圏研究所を設立し、環境と共生し地域の固有資源を活かした「地域づくり」の理念を誇り高く掲げ続けている。その秘密は研究所にある。日本各地から研究所に受け入れる学生たちと住民のコラボで、学生は早川の魅力に取り付かれ住民は地域の固有価値を再発見して、先人たちが暮らしの中で築きあげてきた「まんのうがん」（万能の人という意味）の邑（むら）づくりを現在（いま）に活かそうとしている。そんな早川町から未来を拓く地域の姿を学びたい！是非！
（文責 小沢修司）

◆第4回 11月22日（木）午後3時～5時15分

『自治基本条例が拓くまちづくり（仮称）』講師 逢坂 誠二氏（元二セコ町長／衆議院議員）

※政治状況等により、内容が変わることがあります。あらかじめご了承ください。

宮津市との意見交換会を実施しました

宮津市は本学の包括協定先第1号であり、また昨年度は宮津市に関係したACTR（地域貢献型特別研究）が8本実施され、本学教員と宮津市との協働で研究・調査を行ってきたまです。そして、今年度、当センターではそのACTRの一環として「宮津市の地域活性化問題に対する京都府立大学の地域貢献のあり方に関する研究」をテーマに、これまでの研究蓄積をより宮津市の政策や施策、事業につなげるための取り組みを始めています。

具体的には、先日7月5日（木）には、宮津市の井上正嗣市長はじめ市役所職員の方々とKPI事務局、そして地域連携センター事務局とともに宮津市役所において第1回目の意見交換の場を設けました。そこでは、まず宮津市の今後の方向性について説明をいただいた後、宮津市と本学のこれまでの連携における課題点を整理、後半では、今後の連携のあり方について、ざっくばらんな意見交換を行いました。次回の意見交換会は9月に実施予定。今後もこのような場を通して地域と大学との関係の強化・深化を図って参ります。



↑意見交換会の様子



企画調整マネージャー 杉岡秀紀

最近つくづく、コミュニケーションの「量」だけでなく「質」の大切さを実感します。当センターでは、毎週水曜日のお昼に45分間ランチを食べながら、事務局会議をしているのですが、そこでは、①情報共有、②議論、③意思決定が行われるだけでなく、毎回何かしら「なるほど」と思う発見や気づきがあります。メールだけでなくfacebookやtwitterなどソーシャルメディア隆盛時代だからこそ、このような膝を突き合わせた「顔の見える〈face to face〉」時間や空間、仲間の大事さを再認識する今日この頃です。
（企画調整マネージャー 杉岡秀紀）

KPIリレーコラム